

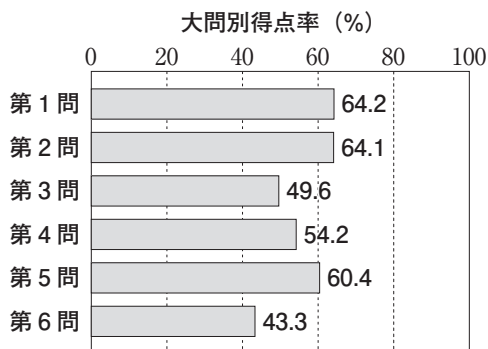
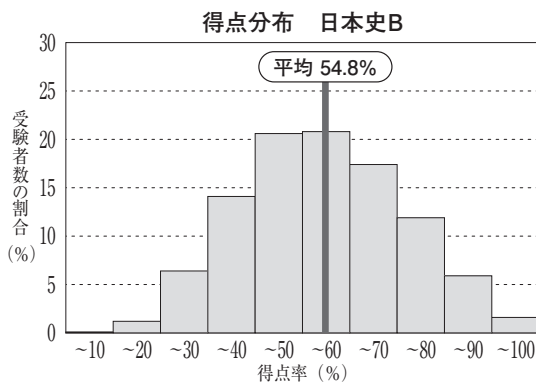
日本史 B

ここからが一番、伸びる！ 「最終」までに課題克服を！

I. 全体講評

心地よい「秋」をむかえるなか、全国統一高校生テストが実施された。果敢にチャレンジしたことに拍手を送りたい。

全国統一高校生テストの受験学年の平均点は 54.8 点と、前回の結果 (51.9 点) を約 3 点上回った。大問 6 題中、3 題 (第 1 問・第 2 問・第 5 問) で得点率 6 割を突破したことは大いに評価したい。その一方で、苦手なテーマが数字に顕著にあらわれたのも今回の結果の特徴であった。古代の土地制度史、昭和戦前期の社会統制に関する問題は特に伸び悩んだ。問題形式では、時代整序問題も解答が分散する傾向が強い。次回はいよいよ「最終」である。これらの課題を克服して臨むことを切に希望する。



II. 大問別分析

第 1 問 宗教に関する会話

宗教と政治・外交史などの主要テーマとの関連性を意識しよう！

宗教史に関して会話文形式で出題した。宗教史は政治史や対外関係史と密接な関連性をもっている。その点に留意しつつ、多角的視野から理解を深めよう。

第 1 問の得点率は 64.2% と好調で、スタートダッシュに成功した。問 1 から問 3 まで 7 割台の正答率を確保し、5 割を切ったのは小問 6 問中、問 4 のみであったことがその要因であろう。問 4 は為政者と宗教の関係を問うた内容で、正答率は 43.9% にとどまった。標準レベルの問題であっただけに、解答解説を熟読して、欠如していた知識はどこにあったのかを綿密に点検しよう。

第 2 問 古代の政治・経済・文化

図説資料集を上手に利用した、「視覚」にうたえる学習法で文化史を得点源にしよう！

古代の政治・経済・文化を中心に出题した。基本・標準問題はケアレスミスなく確実に得点しておこう。

第 2 問の得点率は、64.1% と第 1 問に続いて 6 割台は確保できた。問 1・問 2 がそれぞれ 90.6%、81.9% の正答率を打ち出したことから、習熟度の深さを感じさせる。その一方で、後半はやや「尻すぼみ」の結果に終わった。問 4 は多岐に及んだ平安前期の文化に関する問題であったが、正答率は 48.2% にとどまった。文化史は図説資料集をうまく活用して、「視覚」にうたえる学習を遂行していこう。

第 3 問 清和源氏と中世の政治・社会

土地制度史はテーマ史としてまとめることで、理解重視の学習を徹底しよう！

清和源氏を取り上げ、中世の政治・社会を中心に出题した。室町時代で登場する「足利氏」は清和源

氏の名門である。時代をまたがる視野から歴史を大きくとらえていこう。

第3問の得点率は49.6%と5割を下回り、第1問・第2問と比べても失速した状況がよくわかる。その大きな要因となったのが土地制度史に関する問4だ。正答率は26.1%にとどまり、誤答③を選択した受験者は65.1%に及んだ。土地制度史はテーマ史としてまとめることによって、時代をまたがる広い視野で、制度の変遷の過程を深く理解していくことが重要だ。

第4問 江戸時代の村と町

グラフを使用した問題には、提示された「数字」をじっくり時間をかけて分析しよう！

江戸時代の村と町を取り上げた。幕藩体制下の「村」は頻出事項だが、「町」に関しては得点差が生じやすい。未習箇所のないように心がけよう。

第4問の得点率は、54.2%と5割台は確保できた。問1の空欄補充の組み合わせ問題は72.6%、問3の史料の読解を試した問題は、67.5%の数値から安定していたといえよう。グラフを提示した問2の正答率は37.4%と、受験者の解答が分散した傾向が顕著であった。提示された「時期」と、ときの為政者の政策がしっかりリンクできれば十分に対応可能な問題であった。「時期のブレ」はしっかり修正していこう。

第5問 近代の華族

やや細かな知識が出題された場合は、その時代背景を深く考察する習慣をつけよう！

華族をテーマとして、明治時代を中心に基本的な知識を問うた。近現代史において華族はさまざま局面で登場するだけに、体系的に理解していきたい。

第5問の得点率は60.4%と第1問・第2問と同様に6割台を確保した。問1・問3・問4は、それぞれ正答率が57.7%、79.4%、70.6%と好調だっただけに、問2の時代整序問題で大きく失点したのはもったいなかった。「鎮台」で判断できない場合、「反乱や一揆」を政府が想定する事態になったのはなぜか、を深く考察すべきであった。

第6問 宇都宮徳馬とその時代

未習箇所になっている時代を点検して、計画性をもって学習にあたっていこう！

自由主義者の宇都宮徳馬が生きた時代を取り上げた。受験日本史において、なじみのうすい人物としても、出題内容には影響はないと考え、どっしりと腰を据えてあたってほしい。

第6問の得点率は43.3%と、大問6題中、もっとも低い結果となった。占領期の民主化政策を問うた問5は80.0%をたたき出した一方で、学問・思想統制や戦時統制に関する、問3・問4はそれぞれ21.1%、33.0%と、好不調の波が大きかった。未習箇所が出題された場合はどうしてもこのような結果に陥りがちである。得点力の向上のため、未習範囲にも計画性をもってあたっていこう。

Ⅲ. 学習アドバイス

◆図説資料集の活用

図説資料集などを活用してバリエーションに富んだ学習を推進していこう。センター試験・日本史Bでは、周知のとおり、絵画・グラフ・地図など視覚教材をともなう問題が数多く出題される。このことはさまざまな視野から歴史を理解しているかが問われていることにほかならない。

教科書の内容がどのように図説集では解説されているのかを点検することで、違う視点から歴史を学んでいこう。

◆解法の論理

インプットしたものが、どれくらい身についているかを確認するためには、言うまでもなく、過去問演習が最大の効果を発揮する。とくに失点した問題は放置するのではなく、「何をどう間違ったのか」、「何の知識が欠落していたのか」を冷静に分析してほしい。たとえば、誤文の場合、どの語句を誤りにしたのか、といったことを教科書と照らし合わせて点検してみよう。正答を導き出すための解法の論理がみえてくるはずである。

— 必死に生きてこそ その生涯は光を放つ —
織田信長